



WEEKLY REPORT
郡上八幡ロータリークラブ



国際ロータリー第 2630 地区
東海北陸道グループ

例会日：毎週木曜日 12 時 30 分
例会場：岐阜県郡上市八幡町小野 67(八幡建設 2F)
TEL (0575) 67-0314 FAX (0575) 67-0005
E-mail: rc-8man@abeam.ocn.ne.jp
URL: http://gujohachiman-rc.com/

会 長：平岩憲政
副会長：岩出明喜・松森 薫
幹 事：前田伊三夫
公共イメージ：永瀬和郎・可児一彦
会報担当者：永瀬和郎

2024 年度国際ロータリー会長：ステファニーA. アーチック (McMurray ロータリークラブ・米国ペンシルバニア州)

2024 年度国際ロータリーテーマ：THE MAGIC OF ROTARY (ロータリーのマジック)

<本日のプログラム>

第 2910 回 令和 7 年 2 月 6 日 第 1 木曜日
郡上青年会議所との交流会：みはらやにて

<次回の予定>

第 2912 回 令和 7 年 2 月 20 日 第 3 木曜日
米山・財団卓話 山川直保会員

<前回の記録>

第 2908 回 令和 7 年 1 月 23 日 木曜日
外来卓話：郡上警察署 署長 加木屋 功様

司 会 進 行	川嶋成樹副 SAA
点 鐘	平岩憲政会長
ソ ン グ	それでこそロータリー

新年の抱負 (前回続き)

- ・今年も健康第一で頑張りたいと思います。
遠藤一史
- ・新年早々風邪をひいてしまいました。健康に十分注意して 1 年頑張ります。
可児一彦
- ・今年に入って仕事が忙しくなってきましたが、できるだけ例会に参加できるように調整していきたいと思います。
永瀬和郎
- ・先週、会社の新年会を行わせていただきました。今年も 1 年どうぞよろしくお願いいたします。
信田清久
- ・今年は早々にインフルエンザの A 型にかかり、それが肺炎になって大変えらい思いをしました。今は元気になったので、また今年も頑張りますのでよろしくお願いいたします。
小笠原正道
- ・この 20 年ほど病院にかかっていません。今年もまず健康第一でやっていきたいと思います。
渡邊 剛

・年末年始に近い友人、知人に訃報がありました。やはり健康第一だと思います。自分も仲間の皆さんも、まず健康で家業精進、色々な活動をたくさんやろうと思います。
田中義久

・今年もロータリー出席率 100% (補正含む) で頑張りたいと思います。
富澤義人

来客紹介 前田伊三夫幹事
郡上警察署 署長 加木屋 功様

出席報告 遠藤一史出席担当責任者

会員数	出席	補正	出席合計	出席率
37 名	28 名	8 名	36 名	97.3%

ニ コ B O X 廣瀬泰輔ニコ BOX 担当責任者

- ・郡上警察署署長 加木屋功様、本日の卓話よろしくお祈りします。
平岩憲政
- ・郡上警察署署長 加木屋功様、卓話よろしくお祈りします。
前田伊三夫
- ・会員誕生日のお祝いをありがとうございます。
渡邊 剛
- ・配偶者誕生日のお祝いをありがとうございます。
渡邊 剛
- ・郡上警察署署長 加木屋様、本日の卓話楽しみにしております。よろしくお祈り申し上げます。
遠藤一史・林 勝久・平岩あゆみ・廣瀬泰輔
岩出明喜・岩尾 誠・可児一彦・河合 修
川嶋成樹・國田大雄・松森 薫・三原慎也
水上成樹・森下 光・村井裕孝・長尾信幸
永瀬和郎・西川 昇・信田清久・酒井智義
坂本 仁・竹内巧治・田中義久・富澤義人
渡邊 剛

幹事報告 前田伊三夫幹事

- ・ガバナーエレクト事務所より次年度クラブ情報入り力のお願い
- ・RI 日本事務局よりクラブ請求書
- ・美濃、関中央 各 RC より例会変更等のお知らせ<拝受>
- ・米山記念奨学会より「ハイライトよねやま」298号
- ・桑名北、関、郡上長良川、関中央 各 RC より週報

IDM報告 國田大雄会員

テーマはロータリー財団、米山奨学金という難しいテーマでした。ロータリー財団は、アーチ・クラブが基金の設置を行って、教育、平和、環境、疫病予防などの分野で国際プロジェクトに資金を提供し、ポリオ撲滅や社会貢献活動を積極的に行っているということでした。米山奨学金は、米山梅吉によって設立され、教育を中心に留学生を通じ国際交流を促進しているということでした。

会長の時間 平岩憲政会長



郡上警察署長 加木屋様、今日は大変お忙しいところありがとうございます。ございます。

前回、四つのテストについての質問がありました。ロータリーの基本中の基本である四つのテストの意味ですが、「真実かどうか」は、嘘偽りがないかどうかという率直な意味で、商取引において商品の品質、納期、契約条件等に、嘘偽りがないかどうかという非常に大切な基準です。真実というのは80%の真実という言葉が示すように、人間の心を通じたアナログ的な判定であるのに対して、事実とは、その事実があったのか、なかったのかという二者択一を迫るデジタル的な判定なので、ここでは事実という言葉を用いるということです。「みんなに公平か」については、言葉の翻訳に問題がありますが、フェアは公平ではなく公正と訳すべきということです。公平とは平等、分配を意味するので、たとえ贈収賄で出た不正なお金でも、平等に分ければそれで良いということです。「好意と友情を深めるか」については、単なる好意と善意を表す言葉ではなく、商売上の信用とか評判を表すとともに、店ののれんや取引先を表します。すなわち、その商取引が店の信用を得ると同時に、より良い人間関係を築き上げて取引を増やすかどうかというものです。最後の「みんなのためになるかどうか」は、そのものは働けということを表す言葉です。商取引において適正な利潤を追求することは当然のことであり、決して恥ずべきことではありません。ただし、売り手だけが儲かった、または買い手だけが儲かったでは公正な取引とはいえません。その取引によって取引先が適正な利潤を得るのが「みんなのためになるか」の意味になります。この四つのテストは、ハーバート・テイラーという

方が最初に作ったと言われております。この方は、倒産寸前の会社の社長になり、その理念として四つテストを提示して会社を再建しました。四つのテストは、世界各国で翻訳され広く活用されていますが、いかなる意味においても規則として取り扱われてはならないと規定されており、人間関係における最高の道德水準の向上を図り、それを維持するために書簡箋や印刷物に使用することが奨励されております。販売や利益を増すための広告として結びつけることはきつく禁じられております。日本語の翻訳文については、原文の精神が適切に表現されていないとする指摘もありますが、いくつかの翻訳がされております。ロータリーという冊子に、色々な訳で載っておりますのでご一読ください。

外来卓話 郡上警察署 署長 加木屋 功様



郡上警察署の加木屋です。今日は、郡上八幡ロータリークラブの皆様方の前でお話をさせていただく機会をいただき、大変有難く存じます。また、皆様方には平素から警察行政各般に亘り、深いご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、今日は「最近の犯罪情勢」についてお話しさせていただきます。「近頃世間に流行るもの、押し込み強盗、高利貸、賄賂を貰う偉え人、金、金、金の世の中で…」これは、藤田まことさん主演の必殺仕事人IVのオープニングで流れる口上の冒頭部分です。この口上は「二条河原落書」を真似たものと思われませんが、これを現代風になぞらえると、「近頃世間に流行るもの、トクリュウ、半グレ、闇バイト、強盗、窃盗、特殊詐欺、悪質リフォーム、悪質ホスト、違法スカウト、薬物密売…」こんな感じになるのではないかと思います。昨今、関東近辺での残酷な強盗をはじめ、特殊詐欺、悪質リフォーム等、「匿名・流動型犯罪グループ」と呼ばれる者たちによる犯罪が、国民に大きな不安を与えています。そんな中、ここ郡上市において昨年10月23日深夜から翌24日未明にかけ、八幡町吉野地内及び中坪地内、また12月25日未明には、五町地内において忍び込み事件が発生し、市民の皆様には大変不安な思いやご心配をおかけしているところでございますが、今回の忍び込み事件は無施錠箇所からや窓ガラスを割って鍵を開けて屋内に侵入し、リビング等に置かれている財布からこっそりと現金を抜き取ったりしていくものであり、未だ犯人逮捕に至っていないものの、匿名・流動型犯罪グループ絡みの犯行ではないものと考えております。しかしながら、犯人と鉢合わせなどした場合、居直り強盗等に発展する虞(おそれ)があり、決して楽観視できるものではありません。就寝時、外出時はもとより、昼間の在宅時でも戸締りはしていただき、窓ガラスに

は防犯フィルムを施す、防犯砂利、センサーライト等、防犯設備を整えるなど被害防止に努めていただきたいと思います。

ところで、「匿名・流動型犯罪グループとは一体何ぞや」と思われておられる方もいらっしゃるかもしれませんが、犯罪組織の変遷についてお話ししつつ、その概要についてご説明させていただきます。

従来、日本の犯罪組織は暴力団による犯罪がその典型であり、平成3年に暴力団対策法が施行された時点で、全国の暴力団勢力は約91,000人でした。暴力団対策が進む一方、平成14年には戦後最悪といわれる刑法犯認知件数を記録しました。この要因のひとつに、組織的な薬物及び銃器の密輸・密売、来日外国人組織による犯罪が上げられます。そこで、これら組織犯罪に対応すべく、平成16年に警察庁に組織犯罪対策部を設置、平成17年に当県では「組織犯罪対策課」を設置し、暴力団対策、薬物銃器対策、国際犯罪対策を推進することとなりました。

平成17年以降、暴力団勢力が全国的に衰退していく中、平成20年代には元暴力団構成員、元暴走族構成員等を含む素行不良者が、先輩・後輩、友人・知人といった人間関係に基づく緩やかなつながりで集団を構成しつつ、特定の犯罪組織に属することはないものの、暴力団と密接な関係を有し、繁華街・歓楽街等において集団的または常習的に暴行・傷害事件を引き起こし、違法な風俗営業・カジノ運営等に関わるといった例が見られるようになりました。こうした集団を「準暴力団」と位置付け取締りを強化してきました。いわゆる「半グレ」のことです。このような中、平成後期から令和にかけて新たな特徴を有する集団が台頭してきました。それが「匿名・流動型犯罪グループ」略して「トクリュウ」です。

トクリュウの特徴は、組長を頭として階層的に構成されている暴力団とは違い、収益を吸い上げる中核部分は匿名化されており、SNSや求人サイトを通じるなどして、緩やかに結びついたメンバー同士が役割を細分化させ、その都度末端の実行犯をいわば「使い捨て」にするなど、メンバーを入れ替えながら多様な資金獲得活動を行うため、組織の把握やメンバーの特定が容易ではないという特徴を有しています。

次に、トクリュウによる資金獲得活動の動向について説明させていただきます。トクリュウによるものとみられる主な資金獲得犯罪の検挙人員は、令和6年9月末の暫定値ではございますが、全国で1,886人、最も多いのが詐欺で1,024人、次いで薬物事犯362人、窃盗343人、強盗97人、風営適正化法違反60人の順となっており、県内でもやはり詐欺が最も多く17人、窃盗・薬物事犯が各1人、強盗・風営適正化法は0人となっています。

郡上市においては、トクリュウに関わる強盗・

窃盗というものは現在のところ把握しておりませんが、トクリュウが関わっていると推認できるメールやSNS、若しくは電話等の通信手段を用いての詐欺被害については、令和6年中に郡上市内だけで被害総額が約2,700万円に上るものとなっております。そのうち主だった9例について紹介させていただきます。

まずは「架空料金請求詐欺」と呼ばれるものが2例あり、1例目は「インターネットの料金が1年ほど未納ですごい金額になっている。」「東京で民事裁判になる。裁判費用として30万円が必要になる。ギフトカードを30万円分買って裏面の番号を教えてほしい。」と携帯電話に連絡があり、30万円分のギフトカードを買って番号を教えてくださいました。相手から「他人に話せば秘密保持の関係違反となり更に罰金がかかる。公的機関に訴える。」などと言われ他言を禁止されていましたが、幸い家族の方が詐欺に気付き、直ぐに相手に伝えたギフトカード番号を家族のIDに登録したことで、相手に使われる前に30万円を取り戻すことができました。

2例目は、1例目と同様に「インターネットの料金が未納になっている。」「東京で民事裁判になる。裁判費用として30万円が必要になる。指定する口座に振り込んで欲しい。」と言われ、金融機関のATMから30万円振り込んでしまったというのですが、金融機関にいる間も電話は繋ぎっぱなしにしておくよう指示されていました。

3例目は、「副業・投資・架空料金請求」の複合型になります。インターネットのサイト内で「動画を見てイイネを押すだけで報酬が貰える。」という謳い文句を見つけて申し込み、最初は実際に少額の報酬が貰えたことで信用し、次に「利益の高い仕事がある」と斡旋され手数料や保証金名目の高額な費用を振り込んだほか、投資を進められてお金を振り込んでいたところ「手続きに不備があったため運営側に損害金が出た」とお金を請求され、最終的に合計約600万円を騙し取られたというものです。

4例目は「投資詐欺」です。インターネットで見つけた元日本銀行総裁が運営すると謳う投資サイトに登録し、SNSでやり取りする中で仮想通貨の投資話を持ち掛けられ、仮想通貨アプリで764万円を仮想通貨に交換して送金、その後相手とは連絡が取れなくなり、アプリにもアクセスできなくなったものです。

5例目は「オレオレ詐欺」です。息子を名乗る人物から「〇〇高校の同窓会の葉書が届いていないか。」と自宅に電話があり、実際に息子が通っていた高校であったことから気を許してしまい、「〇〇のお金が必要なので、会社の者が取りに行くので渡して欲しい。」と相手に言われるまま家に来た男に300万円を渡してしまったというものです。

6例目は「返金詐欺」です。ネットショッピングで商品を購入したところ、後日「欠品のため代金を返却する」との連絡があり、相手の指示に従ってSNSの画面を操作していくと78万円が送金されてしまったというものです。被害者は操作した内容を覚えておらず詳細は不明ですが、〇〇ペイでの送金が疑われます。

7例目は、「詐欺盗」という窃盗に分類される手口のもので、実際に犯人の一味が自宅を訪れ、言葉巧みにキャッシュカードを持ち去られるというものです。警察官を名乗る男から自宅に「カードが家電量販店で使われている。異常がないか確認する。」などと電話があり、訪れた金融機関の職員を名乗る者から保管用に封筒を渡され、キャッシュカード5枚と暗証番号を書いた紙を入れたところ、封印用の印鑑を求められ、印鑑を奥に取りに行っているうちに封筒をすり替えられて持ち去られ、130万円を引き出されてしまいました。

8例目、9例目は「フィッシング詐欺」です。「口座が凍結された」というメールが届き、メールに添付されたリンクから金融機関のニセのホームページに誘導させられ、口座番号や取引パスワードを入力すると口座内のお金が別の口座に送金され、直後に暗号資産に変えられてしまったというもので、約461万円と約315万円の被害となっています。

以上が昨年郡上市内において発生した主だった詐欺被害です。この被害合計だけでも2,708万円となりますが、被害の届け出をされないなどの理由から、詳細を把握できないものを含めると被害総額は3,000万円を超えるものとみています。この他にも、幸い詐欺であることを見破り未遂に終わったものも数多くあります。

最近では、SNSで知り合った異性に親近感や恋愛感情を抱かせ、「会いたいので旅費を送って。」「荷物を送るから手数料を払って。」「親が病気でお金が必要。」などと口車に乗せ金銭等を騙し取る「ロマンス詐欺」、更にロマンス詐欺から「2人の将来のために投資でお金を増やして。」などと言って投資に誘導する「ロマンス詐欺」と「投資型詐欺」の複合型、また警察官を装い「詐欺グループがあなたのカードを持っていた。あなたに逮捕状が出ている。ビデオ通話で取り調べをする。」などと言って偽の警察手帳や逮捕状を示して動揺させ、身分証の画像を送信させたり、「逮捕状を取り下げるために費用が必要。」と言って現金を振り込ませたりする手口も発生しています。警察がスマホで警察手帳や逮捕状を示したり取り調べをしたり現金を振り込むように指示したりすることは決してありません。くれぐれも騙されないようにご注意願います。

この種の詐欺は日に日に手口を変化させ、かつ、新旧入り混じりながら、複雑、巧妙化の一途を辿っており、被害者も高齢者ばかりでなく老若男女

を問わないようになってきています。特効薬は今のところありませんが、手口を知っているだけでも防げるものはあると思います。皆様方には、ご自身はもとより身近な人が被害に遭わないように職場やご家庭でも話題に出していただき、警戒心を高めることで詐欺被害の防止にご協力願いたいと思います。

本日は、「最近の犯罪情勢」について説明をさせていただきましたが、これからも署員一同「安全で安心な郡上市づくり」のために邁進して参りたいと考えておりますので、これまで以上に皆様方のご理解とご協力をいただければ幸いです。

結びに、郡上八幡ロータリークラブの益々のご繁栄と、本日ご出席の皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、私の卓話とさせていただきます。ありがとうございました。

*** 今週のお花 ***

スイートピー



花言葉：永遠の喜び
原産地：イタリア南部
誕生花：3月20日